

「本山寺山森林づくりの会」活動報告

秦 康夫

2015 年 5 月 7 日（木） 9:30～15:00

作業項目： 1）ナラ枯れ防止処置（テープ巻き付け）

2）登山道整備

被害の程度はまだ小さいが、このところ本山寺山、ボンボン山一帯でも、一部の木にカシナガ侵入の痕跡が見られる。

カシナガ（カシノナガキクイムシ）は体長 5 mm 位の昆虫だが、6 月～8 月頃に羽化した新成虫が風に乗って大量に飛来する。大口径の広葉樹（ナラ、カシ類）に付着し、穴を開けて内部に潜入、産卵するのだが、同時に持ち込む病原菌のナラ菌がナラ枯れの元である。繁殖したナラ菌が樹木の細胞を破壊し、死んだ細胞が目詰まりを起こして通水障害をもたらすため葉は茶色くなり、木は枯死してしまう。

カシナガが侵入して枯死した木は、それ以上の拡散を防ぐため伐採して燻蒸処理の外ないが、幸い本山寺山ではまだそこまで至っていない。木にタオルを巻いてビニールテープでカバーすれば、もしカシナガが潜入していたとしても、木の外への拡散は防止できるし、また外からカシナガが飛来したとしても、木への付着は防げるはずである。ナラ枯れの完全防止策はまだないようだが、比較的効果の大きいといわれるこの方法を実施して様子を見ることにした。

持参した濡れタオルをコナラの幹に高さ 120cm 程度まで巻いてから、その上に透明のビニールテープ（巾 30cm と 50cm）を巻き付けた。午前は 44 林班「い」地区東海自然歩道沿いのコナラ 6 本に処置を施してから、

自然歩道周辺の枯損木の処理と水切り溝の整備を行い、午後は物置小屋前に移動した。物置付近はほとんどヒノキだがコナラもけっこう多い。持参した濡れタオルはすぐなくなってしまったので、ビニールテープだけのグルグル巻きだがこれだけでもカシナガの付着防止効果は大きい。

午前、午後併せて 30 数本を処置した。カシナガによるナラ枯れ被害地区は北海道を除く全国規模で広がっているが、この本山寺山はなんとしても守りたいものである。

【参加者】

宮本 廣 斧田 一陽 阪下 幸一 武田 壽夫 杉本 佳英
秦 康夫

計 6 名



1. 集合写真



2. 本日の作業表示



3. コナラの幹に濡れタオルを巻く



4 . タオルの上にビニールシートを巻き付ける



5 . カシナガ対策完了



6. 東海自然歩道沿いのコナラ 6 本